

高齢者の消費者被害を減らすために 「気づきのアンテナ」を高くしましょう！

消費者被害にあっていることに気づかなかつたり、トラブルにあっても声をあげられない高齢者がいます。消費者トラブルを未然に防ぐポイントは、本人が問題意識を持つことと、周りの方の「見守り」と「気づき」です。今号では、周りの方の気づきによって解決することができた柏市の事例をご紹介します。

事例① 近隣住民編

■隣の家の前に見慣れぬ車が止まっていた。よく見ると、住人の高齢者が作業員風の若い男2人に囲まれて屋根を見上げている。高額な屋根工事の契約を迫られていなければよいが・・・。



事例② 民生委員編

■担当地区の高齢者宅に頼んでもいない健康食品が送りつけられているようだ。



事例③ 地域包括支援センター編

■担当地区の高齢者宅に海外宝くじの封書が多数届いている。被害に遭っていないだろうか。



事例④ ヘルパー編

■定期巡回で訪問したところ、トイレが利用者の身体に合わないものに交換されているのに気づいた。高齢者本人はとても使いにくいようで、大変危険である。



「何かおかしい」と気づいたら、
まず消費生活センターにご相談ください！
解決に向けて一緒に考えます。